

三郎川魚道 再設置までの道のり

2008年10月12日、多くの方のご協力ご尽力を得て、三郎川魚道がこの日完成しました。地域自治会や酪農振興会、NPO法人、浜中町農協などで三郎川魚道設置委員会を構成し、生産拡大によってちょっと壊しすぎてしまった環境に、昔の豊かさを取り戻したいという思いから住民が手づくりで取り組んだ魚道です。

この魚道の存在を知った美幌町の方々が、駒生川に手づくりの魚道を設置し成果を上げていることもあり、「人と水研究会」では両



損壊直後
13年9月19日

魚道を巡るツアーと両者の交流やフォーラムなどを2013年10月に計画していましたが、その前月にこれまでにない大雨によって三郎川魚道は大きなダメージを受けてしま



2008年設置直後の魚道



いました。4基の三角水制のうち、ひとつは50m下流まで流され、もう一基も破損してしまいました。魚道設置委員会の事務局を現在はえんの森が担当していることから、これまでに積み立てられている管理費でなんとか修復出来ないかと頭を悩ませていたところでした。そんな時に北海道の希少動植物の保護活動などに助成している、北洋銀行の「ほっくー基金」から100万円を寄付して頂けることになり、魚道再建への歯車が動き出しました。8月末には設計者が修復プランを持って現地を訪れ検討会がおこなわれました。その後設計図が届



増水時魚道は水没



魚道設置前
堰堤の高さは1.5m

き、資材の発注、作業工程の確認など準備を進め、いよいよ10月17日には事前準備に十数名、18日作業当日には三十数名の地域の酪農家などが参加して、魚道の再建作業が始まりました。

川の観察会 春の三郎川

5月4日の午後、川魚の観察会が三郎川で行われました。昨春の観察会ではピンクに色づいたイトウを見ることが出来ました。昨年9月に魚道が壊れているので、取水堰から上流に遡ってきているか心配でしたが、午前中に下見してきた理事長が「イトウの産卵床はあったけど、姿は見えなかったので確実に魚が見られるところに行こう。」ということで、上流寄りの2か所に入りました。2か所とも複数の魚影（ニジマス）と産卵床を見ることが出来ました。産卵床は尾びれで砂利を掘ってクレーターのようになっているのですが、一般の人だと言われれば気がつくというくらいのも



です。ニジマスの産卵床で直径40cmくらい。イトウのそれは倍はあるそうです。産卵中であれば人影に驚いて物陰に隠れてしまっても、しばらくじっとしていればまた出てくるそうですが、もう産卵が終わっているのか、姿を隠したまま出てきてくれませんでした。

10月18日作業当日は晴れ。しかし前夜の雨で10cm程増水して前日に堰堤上に並べておいた土嚢が一部流されていました。2008年の時と比べると作業域が狭いため、ちょっと油断があったか、ポンプの不調もあって排水がうまくいかず作業の遅れを招いてしまいました。



今回の魚道は、残った三角水制の一つを使い、直方体の導流堤を設置し小さなプールをつくって魚の遡上を助けるものです。浄水場の堰堤には直接固定することが出来ないため、自重と強度を上げるため、60cm幅のコンクリート製U字溝を2基並べてアンカーで河床の水叩きコンクリートに固定しました。内部に角材を組み上げ、土嚢を詰めています。



U字溝が1トンあるためクレーンを使用しました。魚道付近の川底の砂も流されてしまっていたので、下流で作った土嚢の移動にもクレーンが活躍しました。



完成後、通水前に魚道の上で記念撮影をしたのが16時半、日没の時刻でした。酪農家の方はすでに牛舎作業に帰られて、最後まで残ったのは17~18名と寂しい記念写真になってしまいましたが、翌日にはヤマメが魚道に入ろうとジャンプしている姿が見られました。これからも魚道を管理・維持していきますが、今後は河川改修された他の川の落差工に、簡易な魚道を設置していくという活動も考えられます。



壊れるかもしれないというはらはら感と自分たちでつくったものという思いが魚道への関心を保っていますが、さて来年の観察会では幻の魚に出会えるでしょうか。これもまた楽しみ。



通水直後の魚道



魚道設置委員会で報告書を作成しました。PDF版もあります。事務局へお問い合わせください。

フォトエッセー

Vol. 4 まきばを渡る風

「幸せになれる空」 菅井喜久雄



空を見えていますか

いつものように肥料を積んで畑へ向かっていました。砂利道へ出て南に向きを変えると、前方にとっても明るい逆さの虹が。環水平アーク(水平環)という現象ですが、四分の一円ほどもあるようなこれまで見たこともない大きなものでした。カメラを持っていなかったため、肥料を撒き終えて家へ戻り、水平環はまだ輝きを保っていたので牛と一緒に撮ろうとカメラを持って放牧地へ。2009年5月下旬のことです。この時以降、常にデジカメを持ち歩くようになりました。頭の上では気づかぬうちに彩雲や日暈、幻日などいろいろな現象が起きていたりします。空を見て、風の音を聞き、

刻々と移り変わるまわりの自然に注意を向けていると、感覚が研ぎ澄まされていくような気がします。生きる力がアップしていくのかもしれませんね。

当会理事の中川大介氏が共同代表を務める「人と水研究会」が、昨年10月に三郎川魚道と美幌町駒生川魚道を訪れた際のメンバーの考察を会報にまとめています。詳しくはこちらを。
人と水研究会 <http://hitomizu.jimdo.com/>



あなたの力を貸してください。

NPO法人えんの森の活動は、会員の皆様の力で支えられています。2014年12月1日現在、正会員(社員)27人、サポーター会員110人、団体会員14団体。ご支援に心から感謝します。

- サポーター会員 年会費2,000円 ■団体会員 年会費1口10,000円(1口以上)
- 会費・寄付の口座

- 大地みらい信用金庫 浜中支店 普通1035531 特定非営利活動法人えんの森 理事長 小椋 守
- JAバンク 浜中町農業協同組合本所 普通0014728 NPO法人えんの森 理事長 小椋 守
- 郵便振替口座 02760-2-80105 NPO法人えんの森

★団体会員：飛鳥苑、蝦夷三官寺学研究所、(株)興和工業、コマツ道東(株)釧路支店、三光産業株式会社、日本配合飼料(株)、日本全業工業、根室湾中部漁業協同組合、(有)浜中町就職者研修牧場本場、浜中町農業協同組合、北海道オリオン(株)浜中営業所、(株)丸夕村田商店、(株)丹波屋中標津支店、(株)野生生物総合研究所(敬称略)

NPO法人えんの森ニュースレター「えんの森通信」第5号(2014年12月発行)
En no mori News Letter No.5 December 2014

- 発行 ■ 特定非営利活動法人 えんの森
- 編集 ■ 中川大介、石井健太、菅井喜久雄
- 特定非営利活動法人えんの森事務局 北海道厚岸郡浜中町西円朱別西18線181番地
電話:0153・65・3020 ファクス:0153・65・3021
電子メール: enmori@least-shrew.jp
ホームページ: <http://least-shrew.jp/enmori/>



NPO法人えんの森

えんの森通信

En no mori News Letter No.5 December 2014



北洋銀行から寄付 魚道再建へ弾み



7月10日、北洋銀行が北海道の生物多様性に資するために設けている「ほっくー基金」から三郎川魚道設置委員会の事務局を務めているえんの森に対して、昨年秋の豪雨で損壊した三郎川魚道の再建のために100万円が贈られることとなり、えんの森の事務所がある旧西円朱別小学校に北洋銀行会長をはじめCSR推進室の方、北洋銀行釧路中央支店長など4名がおいでになり贈呈式が行われました(CSR=企業の社会的責任)。浜中町・町長をはじめ、えんの森役員その他、三郎川魚道設置委員会の構成メンバーである浜中町農協・参事、認定NPO法人霧多布湿原トラスト・理事長、西円朱別連合会・会長などの関係者が見守る中、ほっくー基金代表である北洋銀行の横内会長からえんの森の小椋理事長に目録が手渡されました。小椋理事長は挨拶で「責任の重さを感じる。活動に弾みがつく」とのべていました。壊れた魚道を修復するにも、管理費として積み立ててあった限られた資金の中でどうやるかと頭を悩ませていたので、光明を得た思いでした。横内会長自ら現地を訪れ、いろいろな方と親しくお話をされている様子を見ていると、挨拶の最後におっしゃった「最前線で活動している方々と一緒に我々もやっていきたい」という思いに伝えるべく活動していきたいとの思いを強くしました。(菅井)



第3回 総会開催

5月4日、第3回通常総会が、西円朱別農研センターで開催されました。総会は、議決権者出席と委任状の提出を得て成立。小椋理事長の開会のあいさつで始まり、議長、議事録署名人を選出の後、議案に入り、第1号平成25年度事業報告、第2号平成25年度収支決算、第3号会計監査、第4号平成26年度事業計画(案)、第5号平成26年度収支予算(案)、第6号その他事項として出資金、理事増員が報告されました。第2号議案に一部修正が求められましたが、その他議案は可決、承認されました。

<役職員>

- 理事長 小椋 守
- 副理事長 鈴木名敏男
- 理事 垣内勇人
- 理事 甲斐沼淳一
- 理事 中川大介
- 理事 菅井喜久雄
- 監事 目黒耕次
- 事務局長 石井健太

2013年度決算および14年度予算、事業計画

2013年度決算 (単位・円)	2014年度予算 (単位・円)	2014年度の主な事業計画
収入計 6,256,203	収入計 3,768,010	●丸佐川・三郎川の自然環境情報の整備
支出計 4,441,050	支出計 1,418,705	●三郎川魚道の設置を検討
収支差額 1,815,153	収支差額 2,349,305	●自然観察会の実施 など